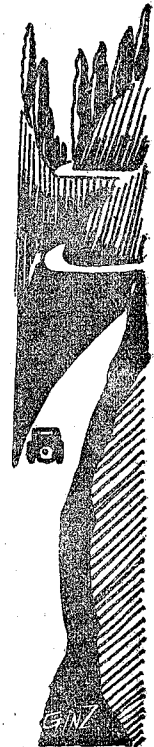


# 批評と紹介



## 國際道路會議委員會の議事に就て

(昭和十年六月二十二日巴里)

藤井眞透

昭和十年六月二十二日巴里の國際道路會議事務局で常置委員會を開催した、會長 Mahieu、副會長 Chaix、理事長 Gavrian 及獨逸、アルゼンチン、ベルギー、エジプト、スペイン、佛國、英國、伊太利、ルクセンブルク、モナコ、シヤム、スイス、並に匈牙利、和蘭の代表が出席した。

開會に當り會長から挨拶あり昨年第七回道路會議を獨逸ミュンヘンで開催し大なる成功を得た事に對し獨逸當局に深く感謝の意を表し、更に獨逸に於ける自動車道の建設事業に對し深き賞賛の意を呈した。彼は述べて曰く、各國で

も現在尙自動車道の建設に疑義を抱くものがある。即極めて多額の建設費を要する場合に有利であるか、自動車道は交通量を増大せしめ得るものであるか、多額の經費を投じた鐵道に對し致命的打撃を與へないだらうか等の問題が横はてるが之に對し二個の實績を現在提供して之に答ふる事が出来る、一は創設以來擴張して止まない伊太利の自動車道と他は急速に實施されつゝある獨逸のそれである。之によりて各國とも同様にある程度迄は建設の可能性ありとの意見を立て得る資料を與ふるものである。

道路の建設及維持に關する施工法が歩一步標準工法化され完璧に近づきつゝある事をミューンヘン會議で述べ得た事を喜ぶものである。各國共にその工法は同一標準に向つてゐる、此結果を招致したのは、道路會議の盡力と之に努力した技術家の賜である。現在自動車交通量の如何に係らずその重量及速度の過大なるにも係らず、現在の道路はよくその交通に耐え得るに至つた、已にある程度迄は路面問題は解決されたが更に進んで考究すべき問題は何であるか、之に關しては路面維持に關する工學的研究の問題が極めて重要であると思ふ、維持費は一般民衆の重大なる負擔であり吾人は之を軽減するあらゆる努力を拂ふべきである。之に關する詳細且最新なる工法を本會のプレツチンで發表したいと考へてゐるから之に關して各國で研究され創始せられてゐる工法を報告されん事を望む、道路の問題に於ては秘密があつてはならぬ。

最後に本會議に協力せられた人々で過去一年に逝去された次の人々のために哀悼の意を表したい。

第一に本會創立の一人たる *Balf* は多年副會長で今日の強力なるツーリング俱樂部をも創立した人である。

*Wain* 氏は、第二回會議の常務理事で亦本會創立の一人である。

佛國の *Cherieux* 氏、波蘭の *Minchejmer*、濠洲の *Schneider* 氏は各その國に於て有力且本會のため不勲努力貢獻して頂いた人々である。

茲に深く哀悼と感謝の意を表したい。

理事の移動はエジプトの *Haku* の代りに *Serry*、佛國の *Cherieux* の代りにパリ市廳の第三委員會長 *Pointel*、及 *Rohan* 氏、愛蘭自由國では *Quigley* の代りに内務省の技監 *Courney* 氏、波蘭では *Minchejmer* の代りに道路局長 *Glikowicz* 氏が新に任命された、茲に本會に對して盡力されむ事を深く切望する。

次に理事ガブリアンが例の如く立て述べられた。

「茲に報告及會計を呈出したがその要點を述べると昨一九三四年十二月現在で本會議に加入せる政府は五七ヶ國で二

國を増加し團體會員は六二九で同様五八を増加し個人會員は一六一一で同様に前年より七六人を増加した。

本會は隔月に、ブレッチン及道路工學の各國の文献集 (bibliographical index) を發行してゐる。用語は一九三四年の初めから英、佛及獨逸語を用ひた。

ミュンヘン會議に就ては獨逸トッド博士、フィルビツヒ及シュツテ氏に深く感謝する、會議報告書は獨文は已に獨逸で印刷し英及佛文のものは只今巴里で印刷中である。

本會創立二十五周年祝賀會をミュンヘンで行つたがその際獨逸政府はニンフェンブルク陶器製の紀念品を本會に送られ、只今マンテルピースの上に飾られてゐる。

尙中華民國政府から美しい絹製の刺繡を送つて來たが之は相當の縁をつけて之で室を飾りたいと思つてゐる。茲に深く感謝の意を表する次第である。

ミュンヘン會議で一九三八年の次の第八回會議を和蘭のハーグで開く事を決した事に關し茲に和蘭の道路委員會のゲリング氏に深く感謝する。

最後に道路會議の各國の構成委員會 (National Committee) は、現在一四に達してゐる。

一九三四年の經費は四二五、〇〇〇フランで會議に於ける獨逸の經費を加へると五八〇、〇〇〇フランに達する。

一九三七年に開かれる豫定のパリ博覽會の爲に本會事務局を國立土木大學内に移轉するを餘儀なくされてゐる。

更に次の如く述べた。

ミュンヘン會議の決議によりて成立した委員會の經過は次の如くである。

(一) Dictionary Committee (用語委員會) は極めて困難なる事業でまともな悪いけれど本年末迄にもう一回會合し、それ迄は各國で研究する事とする。

(二) Enkision Committee (乳劑委員會) はその試験の定義を明確ならしむる事を研究する。

次に會長はロンドンからイスタンブールに至る、大國際道路の問題を議する國際會議を匈牙利のブタペストで開催するので匈牙利政府の招待を受けた事を述べ同國代表エリ

ツシャー氏の發言を求めた。

匈牙利代表エリツシャー氏は立て次の如く述べた。

自耳義ブラツセルスにある國際自動車聯盟(the Alliance Interationale de Tourisme)は九七のツーリング俱樂部及自動車俱樂部から成つてゐるが、今度ロンドンからイスタンブールに至る中歐縦貫の大自動車道幹線の創造を提唱した。ロンドンから Dover, Calais, Ostend, Brussels, Cologne, Frankfurt a, M, Nuremberg, Passau, Linz, Vienna, Hainbury, Győr, Buda, est, Keskemet, Szegedén, Subotica, Nori, Sad, Belgrade, Nisch, Sofia, plovtiv, Edirne, Luleburgar, Thaborlon 及 Silvri を通過する大幹線である。

東方より西方に達する幹線で人類の歴史的路線の一である、進で一方印度に他方アフリカに向つて此道路線を延長する可能性もあつて經濟的價値も極めて大である。

尙之は新路線の創造でなく在來路線の改良調節をなすのみで足るものである。

最も緊要なるは技術、交通標識、同整理で、之は各國の

主務廳で之を行ひ、互に協力して歩調を合すればよい。

匈牙利政府は已に今年九月十日乃至十四日にブタペストに之を開催し、技術的問題稅關の組織、交通方法を主題として協議する爲に各國政府との國催會議を開く事を決定した。

之が爲に國際道路會議協會としても之に参加あらん事を要請する次第である。

エドモンド・ショー氏は之に答へて云つた。

私もその主唱者たる聯盟の一員で協議に預つてゐるが、本幹線は佛國內を通過したい、國境で約三〇料を距れてゐる過ぎないから賛成できない。

匈牙利代表は答へて「その點に關してはルーマニアに於てはブカレストに向つて支線を出し、ユーゴスラビアに向つても同様に支線を出す豫定であるから佛國でもパリに向つて支線を出す事は自然である。もし會長がブタペスト會議に出席あれば之らの線に就て運動したいと思ふてゐる。

ショー氏は「計畫路線が特に佛國領」を通過しない事は極めて變に思つてるとフランスのツーリング俱樂部も國際

聯盟に指摘してゐる。

會長は言をはさんで「今吾々は各國の特殊の見地から考へ様とは思はないが必要な時機に計畫路線に關して特に注意を喚起したい。

尙之に要する經費は極めて莫大であらう。従て本會としては出席しても問題の特別の解決を支持する事を意味するものでない事を明にしなくてはならぬ。

今考へて見ると招待を受けたがよい、實際本會としては出席すべきものだと思ふ、然しその計畫路線、交通問題、國境、及財源に關して參與する事は必要でない。

ガブリアンは附言して「本路線は一般計畫の一部」を成すもので已に全歐洲に亘る國際道路に關する幾多の計畫があつたと思つてゐる。

匈牙利代表は答へて曰く、その通りである一般計畫はある。ロンドン・イスタンブール線はその一のモデルに過ぎない。他の幹線としてパリからマドリッドに向ふものはその一例だ。

一九三四年三月二十一日から二十五日に亘る獨逸ミュンヘンに於る國際自動車聯盟の報告に其詳細が記されてゐる。

シヨーン氏之に答へて、その通りで聯盟が Association of Recognized Automobile club との聯合協議會で造り今年四月發表したもので各國政府の發表したものではない、従つて計畫路線の通過する國の政府に對して聯盟から同意を求むべきものである。聯盟は之を實行する力を有しないから單なる希望に過ぎない。従て本會としては之に技術的指示を與ふるに止むべきものである。

匈牙利代表は「本會は道路技術の最も權威ある國際團體であるから、技術的問題に提議を與ふる爲に此度のフタペストの國際會議に出席する事を提議する、もし出席する事となれば満足にたへない。

會長は言を加へて「本會はブタペスト會議にオブザーバー、忠言者としてならば出席し、技術的問題の研究に助力する事に同意したいと思ふ。此問題の基礎及その路線の經過地に關しては何れにも加擔する事は出来ないその判斷は

保留しなくてはならぬ」

茲に此問題は賛成を得た。

匈牙利代表は深く本會に感謝しブタベスト會議で各國代表を歓迎する用意ある事を述べた。

會長は更に次の問題の討議に移り、スペイン代表 Lopez Pegonez の發言を求めた。

西班牙代表は立つて「余は西班牙政府の支持を受けてる國際道路協會の西班牙國內構成委員會を代表して次の事を述べた」

「ミュンヘン會議の閉會式で西班牙政府代表は吾國及ラテン亞米利加共和國を代表して西班牙語を本會の公式用語の一として採用せむ事を希望した本會常務理事は此提言を承認され、日本の本委員會の議題とする事を申述べられた。

西班牙語は一億萬人を包含し、道路の迅速なる發達を遂げつゝある攻馬、アルゼンチン、チリその他の各國に廣く使用されてる。國內委員會でも本部とより密接なる交渉連絡をとるべく努力してるがその爲に西班牙語を公式用語に

是非加へる事は希望する。

伊太利代表イサコ氏は立て曰く「西班牙語を公式用語とする事は、已にワシントン會議の際に起り、その際は特に公式用語として取扱つたと思つてる。伊太利としては西班牙語を公式用語とする事は伊太利語も同様に公式用語とするならば賛成する」之は次の會合の際に研究したいと思ふ

會長は「本會として四年毎に國際會議を開催し別途の財源を考へなければ經費の點から現在の狀態では實現困難である。四乃至五箇國を採用すれば少からぬ支出を要する事は確かである從て財政上餘裕を生ずる迄之を延期したい」  
西班牙代表は「單に經費の點のみであるなら、吾々は政府に之を要求したい、そして直に本國の土木省 (Spanish Ministry of public works) に報告したいと思ふ。

常務理事ガフリアン氏は「實際餘分の經費に對して臨機の寄附ある事は望ましいが、本問題に關しては一九三〇年のワシントン會議で四國語を用ひたのは南米の大多數が出席したからであると思つてる。米國政府は餘分の經費は總

て負擔してくれた、同様に一九二六年のミラン會議では伊太利語を加へたのである、之らの場合と同様の條件をとれば可能である。従て此提言を考究し機會ある度に常置委員會で決定したいと思ふ。

西班牙代表は「西班牙政府に報告する爲に之に要する經費をなるべく早く知りたいと思ふ」

伊太利代表も同様の要求を述べた。

會長は之を承諾してなるべく早く知らせる事とした。

アルゼンチン代表ジラド氏は「それを他の西班牙語の政府にも通知するか」を問ひ、會長は之を承認した

西班牙代表 Diaz Amfionia 氏は更に他の問題に言及して「ミュンヘン會議では議題四に關して西班牙代表の提言によつて次の結論を滿場一致採用した（事故防止に成功する爲には、各國に於て此目的を支持する總ての團體國際的協力が望ましい、事故統計を詳細に造るは各國に於て極めて緊要であつて、始めから一定の基準方式に従つて表示するを要する。之を實行するに當りコペンハーゲンに於ける

第四回國際安全會議の結論を考慮に入るゝを要す。此問題に關する事業は各國共なるべく速かに始めねばならぬ）  
之により余は各國のなすべき統計表の基準方式を造り、各國政府に之を用ふる事を要求し以て義務として之を行ふ國際組織を造らん事を理事會に要求するものである。

ガブリアン氏は「理事會としても等閑に附したのでなく、ミュンヘン會議後各國の權威者に通知して必要なる報告を集めつゝある。已に來てる報告もあつて之に依ると國によりては統計の形式を決定するものもある」従つて本會は幾分立場をかへる必要あり之に關する委員會の任命がまた出来ないのだ。然し之に考慮を拂つて報告形式の研究を行つてるから近く委員も發表し得ると思ふ。

一九三四年コペンハーゲンに於ける人命救助會議（The Saving Congress）でも之と同じ問題で簡單なる結論に到達してゐる。

アンブロナ氏は、努力を感謝し更に言を進めて「尙前會議で討議に迄は入らなかつたが、道路材料としての國際的

資源、示方書を集め、各國の特質性状を集める事を述べた獨逸のトツド博士は前記の提言を貴重のものであるから、各國代表の間で意見の交換をなして之に資したいと述べた從つて之に關する適當なる方法はないだらうか」

理事は答へて「それは要するに國際委員會は道路材料、特に瀝青材料等の特性に關して報告を集聚したいと云はれたと思ふ。それは極めて困難と感ずる、問題は極めて煩雜では國際會議の問題である。常置委員會は從來會合毎に、Qualities to be sought when selecting materials etc の同一議題で討議しやうと試みたが、道路材料はその質のみならずその製法共に急激に變化しつゝある、從つて六ヶ月又は一年で已に舊式、時代遅れとなる恐れがある。之に反して Ambrosia 氏の言は本會の從來の印刷物に已に發表されてゐる。

「各國の氣象の特質に應じ今日適當と認められてる材料の特性」の方が本會の希望である。各國の示方書を集める事などは殆ど不可能の仕事で尙之は困難なるのみならず速急

には出来ないから例へ集め得たとしても之ある事は却て危険である。

西班牙代表は「でもそれは非常に参考となり、從來の慣行の基礎として役立つに充分の確實性あると思ふ」

會長は「標準示方書作成委員會の任事は各國とも極めて困難で速急には出来ない。そして絶えず改訂されるものである。之を國際的標準化しやうとしても之は時代のトツプを行き得ない。例へばある時機に英又は獨逸に適當のものであつても、西班牙には適當しないであらう。從て各國で之を研究し國際會議の折に之を發表し比較する様にしたいものである。

本會のブレツチンにも此問題を集めてる、各國の特質を發表するはその目的である。從て各國ともに之を本會のブレツチンに發表して頂きたいものである。今委員會を設くる事は成功しないと考へる。問題は極めて有益であるがその解決が困難である。之で本會の議事を了り、和蘭に於ける次の會議の議題は次回に譲る事となつた。